

船井情報科学振興財団 2015年度 留学報告書 (12月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

【正課活動】

博士課程も3年目となり、学位取得に向けても終盤戦の様相に入って参りました。微調整に昨年一年間掛かった実験も、遂にいよいよ今年度初頭からデータ収集に入っています。デザインマネジメント研究における新規の理論と方法論の構築に取り組み、2年間で研究の枠組み作りに費やした甲斐もあり、手前味噌ながら非常に面白い研究成果が得られるのでは、との期待に胸を踊らせています。

研究課題は以前お伝えしました様に、工業デザイナーが製品コンセプトを消費者にどの程度正確に伝達可能であるのか、その度合いに影響を与える要因は何であるのか、というものです。工業デザイナーの(いち)能力を消費者認知の観点から分析し、経営戦略策定に活用することを目的としています。本研究では、既存の経営学の文献をベースに、心理学、社会学、経済学の理論を組み込み、機能性によるアピールではなく、感情的購買欲求に訴えられ、消費者が購買行動を引き起こすプロセスを統一的にモデル化しています。また、この分野の消費者認知を科学的手法で検証した研究はほとんどなされておらず、今回はきっと面白い報告が出来ますことを願っております。

また、前回の報告から約半年、様々なアカデミックネットワークも広がりました。まず、ここ1年ほどで日本からも私の所属する IfM に訪問下さる方々が特に増え、産学官の様々な分野の方々とお話させて頂きました。産業分野における政界、学会の第一線でご活躍の先生はもちろんの事、とりわけ野心溢れる大学生に、「私も負けていけない。」と大いに刺激を頂きました。この潮流は私自身とても嬉しく、日本でももっともっと製造業に対する見直しや、デザインマネジメントへの関心、またケンブリッジを始め世界中に進路の選択肢があるという認識が広まってくれる事を願っております。

去る11月にはボストンを訪問し、ハーバードビジネススクールとマサチューセッツ工科大でデザイン関連の研究をされている先生方とミーティングをして参りました。どの方もデザイン学コミュニティでは著名な方ばかりで少々緊張しましたが、突然のお願いにも関わらず、接触を試みた5名中全ての先生がお返事を下さり、その内3名もの先生がお忙しい中私のために時間を割いて下さいました。アメリカのデザイン研究のトレンド、また上記両校のデザインに対するアプローチなどを垣間見る事ができ、ケンブリッジとはまた違った捉え方があるのだなと、とても勉強になりました。博士論文が一段落したら、共同研究も視野に入れて行ければと思います。

【課外活動】

本年度もバドミントン部の副会長を務めさせて頂く事となり、変わらない日々を送っています。足の怪我もなんとか回復し、再発しないように努めながら練習に励みたい所存です。しかしながら、この怪我を期に、好きなスポーツを思い切り出来ない苦痛、更に日常生活への支障を改めて認識し、近い将来医療的観点からデザインされたスポーツインソールを開発したいと目論んでいます。開発計画書は既に書き上げてあるので、もしも共同開発や資金援助、データ

船井情報科学振興財団 2015年度 留学報告書 (12月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

収集のご協力のお申し出などして下さる大学、研究機関、企業、バドミントンチームの方々が居られましたら、是非ともご一報頂ければ大変嬉しいです。

カレッジのボート部も継続しており、今年は何とか **May Bumps** で1軍出走できるよう、トレーニングに勤しんでおります。特に私はボート部の中で最も背が低い部類なので、他の部員との競合は気合いでカバーです。(ボートは競技の特性上、身長差がそのまま優位性となるので、辛い所です。ちなみにボート部1軍の平均身長は190cm弱ほど、大学選抜にいたっては195cmを越えるとか越えないとか。) ちなみに、ボストンから帰国した翌朝の練習で、時差ぼけ覚めやらず見事に寝坊して遅刻してしまい、罰として学期末のディナー(参加者50名程度)で自作の詩を朗読させられました。(私以外にも、あと2人同じ咎人がおりました。) 自画自賛で恐縮ですが、まずまずの会場の反応に胸を撫で下ろしました。

また、新たな役職として、ヘルメス倶楽部(カレッジのスポーツ紳士倶楽部)の書記に任命頂きました。本倶楽部は、セルウィンカレッジのメンバーで、カレッジのスポーツ振興に対して顕著な貢献を納めた者が招待される会員制倶楽部です。私はバドミントンの大学選抜とボート部における活動が認められ、昨年からは会員となりました。主な活動理念はカレッジスポーツの発展への尽力、および文武両道を旨とする会員同士の知的交流です。ここまではセルウィンカレッジのホームページにも記載されていますが、一応秘密倶楽部となっており、心苦しいですがこれ以上の活動内容は他言が禁止されています。つきましては、もし今この報告書を読んで頂いて、ケンブリッジへの留学を検討されている方が居りましたら、是非ともセルウィンに出願して、文武両道を邁進し、ご自身で入会して全容をご確認頂ければと思います。

以上で博士課程3年目の前期報告を終えさせていただきます。現在東京へ向かう便を待ちながら、空港で本稿を執筆しております。久しぶりの日本の冬の匂いが楽しみです。

ご一読頂き、ありがとうございました。紅葉卸しと大吟醸に想いを馳せながら $\Sigma d(\cdot \omega \cdot)$

2015年12月初旬
重本祐樹
Doctoral Researcher
Design Management Group
Institute for Manufacturing
University of Cambridge
ys402@cam.ac.uk